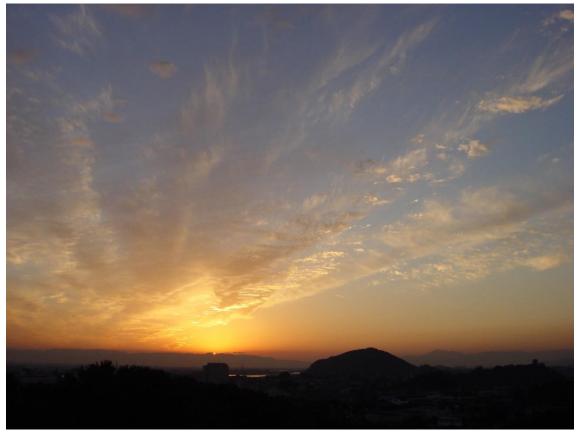
## さよなら、日本霊長類学会 小嶋祥三

今年も日本霊長類学会の年会費の振替用紙がきており、わたしは会費を納入した。2003年に大山の京都大学霊長研(以下、霊長研)を離れたが、わたしはまだ日本霊長類学会の会員だった(もうそろそろ 20 年になる)。無論、退職してすぐにやめることはできたが、わたしを研究者として育ててくれた、霊長研や霊長類研究に愛着があったのだ。わたしが慶應義塾に移ったのにはいろいろな理由があったが、研究所や霊長類研究が嫌になったとか、飽きたということではない。室伏先生や浅野さんは定年を待たず、また助教授(昔の職階名で)で他の大学に移っていった。それが心理部門の人事の風通しを良くし、わたしはその恩恵を受けた。わたしは両先達に倣って、定年を数年残して、犬山を離れた。しかし、後進に道を譲るという慣習はわたしで途絶えた。その後、心理系の身近だった同僚の不祥事でトンデモないことになり、霊長研は解体され、消滅したのはご存知の通りである。

わたしは今年度で日本霊長類学会の会員を辞めるつもりだ。霊長研はなくなり、わたしももうヒト以外の霊長類の研究に関わることはないだろう。京大の中枢にいた霊長類研究者にもガッカリした。いろいろな喪失感。今が辞め時のようだ。



研究所から見た日没。木曽川が夕空を反射し、犬山城がシルエットになっている。